

ベトナムの電力網近代化と再生可能エネルギーの課題

2025 年 2 月 19 日 作成

カテゴリ ベトナム市場調査 環境・再生可能エネルギー

ベトナムの電力網近代化と再生可能エネルギーの課題

ベトナムは、持続可能なエネルギー供給を確保するため、再生可能エネルギーの統合による電力網の近代化を推進している。この変革には、電力会社、技術企業、政策立案者、消費者の協力が不可欠であり、太陽光、風力、水力、バイオマス、地熱、潮力・波力などの再生可能エネルギーが重要な役割を果たしている。

再生可能エネルギーは、長い歴史を持ちつつも、産業革命以降、石炭や石油に取って代わられた。しかし、21 世紀に入り、環境負荷の低減やエネルギー安全保障の観点から再び注目を集め、特に太陽光と風力発電が急速に拡大している。

2025 年には再生可能エネルギーが石炭火力を上回る世界最大の電源となる見通しであり、この動きは地球規模の排出削減と電力網の変革に大きな影響を与えている。

再生可能エネルギーの導入には多くの利点がある。電力供給の分散化によりエネルギーの安定供給が強化され、温室効果ガスの排出が抑制されることで環境負荷が低減される。また、新たな雇用創出や経済成長の促進も期待される。しかし、導入には課題も多い。例えば、太陽光や風力発電は天候の影響を受けやすく、安定的な供給が難しい点が挙げられる。また、エネルギー貯蔵設備や送電インフラの整備には莫大な初期投資が必要であり、一部の再生可能エネルギーは地理的な制約を受けることもある。

こうした課題を克服するためには、電力網の強化とエネルギー貯蔵技術の進化が不可欠である。加えて、政策的な支援や国際協力を通じて、投資環境を整備し、持続可能な電力供給を実現する必要がある。将来的には、技術開発とインフラ整備を進めることで、より強靱で効率的な電力網を構築し、持続可能なエネルギー供給の確立を目指すことが求められる。

以上